紹介。鳥取大農学部獣医学科の伊藤壽啓教授は、家禽保護の視点から「高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり」、農事組合法人清和畜産獣医師兼イデアス・スワインクリニックの黄谷（早川）結子院長は、家畜保護の視点から「養豚生産と感染症対策につ

黄谷（早川）院長

施する「革新的ウイルス対策技術分野叡智共有化プラットフォーム」の取り組みの一環として実施された。

岡山大などでは、今後も農林畜産水産分野や社会を革新する研究開発を精力的に押し進め、社会実装を目指すこととしている。

大学院工学研究院で『論文週間』を設定（広島大）

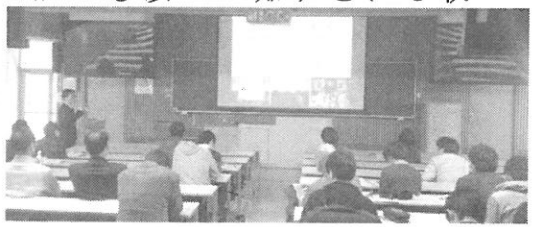
広島大学大学院工学研究科の教員組織・大学院工学研究院は、教員の研究時間・論文執筆時間を確保するため、去る3月14日から30日を会議などの行事を見合わせる『論文週間』と設定した。広島大初の取り組みで、あわせて3月22日と30日、論文執筆に関するイベントを開催した＝写真＝。

3月22日には広島大研究企画室とライティングセンター主催で、若手研究者のキャリア形成や国際共同研究活性化を通した論文生産性向上への貢献を目的とした論文週間記念講演会『若手トップ研究者による海外サバイバル指南～国際共著論文増加のために～』を開催。学内外の若手研究者による講演で、海外のトップ研究機関での経験や論文執筆に関するノウハウを紹介した。

同30日には、論文執筆に集中する環境を研究者に提供することで論文の生産性と質の向上を目的とする『論文執筆リトリート』を開催した。参加者は論文執筆に積極的に取り組むとともに、4回のミニセミナーで論文執筆における知識を習得した。

両イベントは好評で、アンケート調査で8割以上が「有益」と回答するなど、同様のイベントの開催の実施を望む意見が多く寄せられた。

大学院工学研究院は、広島大の研究力強化における先導的な部局として、これらの取り組みをはじめとする研究環境への改善を積極的に継続し、多部局への広まりを促すことで、広島大の機能強化に貢献していく。



広島大、実践研究発表会を開催
留学生による「多文化共生の地域づくり」

広島大学短期交換留学プログラム（ＨＵＳＡ）の留学生が去る4月7日、東広島キャンパスの学生プラザで「多文化共生の地域づくり」グループ実践研究プロジェクト中間発表会（第2回）を開催した。

北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの19カ国34大学からの交換留学生約30人が、ＨＵＳＡ担当の恒松直美広島大国際センター准教授による司会・進行のもと英語で研究発表。留学生は、昨年10月から地域学校・地域団体等と連携して実践プロジェクトを行っており、各グループのプロジェクトの進行状況について報告した。

発表会は、昨年11月と12月のプロジェクト発表会と同様、地域公開で開催され、地域団体、市議会、地域企業、広島大附属高校などからも参加を得て、社会で活躍する有識者から貴重なフィードバックを得た。また、留学生が地域に働きかけるうえでの課題や成功の秘訣など、現場から改善に向けさまざまな意見が出された。

現在、インタラクティブな手法による子どもへの異文化紹介、各国のお祝い行事の紹介、音楽を通じた英語教育など留学生の創造力と実践力を十分に活用した実践プロジェクトが進行しつつある。発表会の成果が、実践プロジェクトにさらなる飛躍をもたらすことが期待されている。

地域の参加者からのフィードバック

発表を聞くＨＵＳＡ交換留学生